

月去
川

転入	10人
転出	13人
(出生)	4人
森野郷常	兵頭永井山清水
	知千恵久美
	栄ちゃん ちやん ちやん ちやん
(死亡)	7人
保柳野尾藪	河野半兵衛
	森岡千年
	万願寺キク
	二村タツ

あなたにとって

「ふさ」とは

新潟 東京 広島からの手記

巨大な資本や土地、資金を持つ大企業、あるいは大都市といった巨人たちのレースの中で、小さな体であえぎながらもけんめい走ってきた選手、決してレースをあきらめなかった小粒な男……。それが私たちの町「ひじかわ」のこれまでの姿ではなかったでしょう。

しかし、巨人たちが公害や動脈硬化やいろいろな疲れの出はじめた今日、いまこそジョーイスをひと口のみ、元気をとりもどし、都市化、成長といった巨人を追い抜かねばなりません。

そうかといつて、都会人の郷愁や物珍しさ、脱都会的な発想ではとうていその使命を果せるものでもありません。あくまで農山村の都市化であつてはならず、自然と文化のバランスのとれた新しいふるさとの建設でなければなりません。

こうした時に、町に住む者、町外で働らく町出身者に「あなたにとつてふるさととは……」と問ひかけてみるのも新しい町づくりへの強精剤として必要なことではないでしょうか。

安川勝人の手記

安川勝人さんの手記
 ある日「私の郷里はねえ……。」
 と妻が珍しく故郷の風物などを話し出した。私は妻の思ひ話に妻と興味はなく適当にあいずたが、妻はい……。
 とは親父であり、おふくろ

時はそうせすにはいられた
 かある故郷はよ、私の脳裏
 ものにちがいない。「大切な
 一千万人の誇大な人口を
 のんだ東京の人に出合つた時
 などは驚きと喜びを通り
 越して生來の知己にめぐり
 合つたような感慨にふけり
 一晩中痛飲しあはれどれ
 ほど年令の差があるうと
 一向におかまいなしでこ
 れまた、酒の肴は郷里であ
 るから妙である。
 人生の一端であり、私にとつて
 成上欠くことのできない礎
 である。

から遠く北國へ整然として
 帰って行く渡り鳥を眺めて
 「鳥になりたい」と思つた少
 年の頃、ふるさとと自然
 は大丈夫だらうかとも思
 たりする。
 海辺を故郷とする者は、
 潮の「句」があるように、
 ふるさとがいかにも變らうと
 少年時代に肌で感じた自
 然の「句」は忘れることは
 できない。

「あなたにとつてふるさと
 ととは」と聞かれる時、胸
 をはつて答える……。
 ふるさととは、親父であ
 り、おふくろであり、いつ
 でも、どこでも、どんな時
 でもあたたかく
 そく迎えてくれる

とは親父であり、おふくろ

- 必ず許可を受けること
(未成年者は許可を受ける
ことができるない)
- 捕獲および飼育数は一人
三羽以内
- 捕獲および飼育できる保
護鳥ウグイス、ヤマガラ
ホオジロ、ウソ、メジロ
ヒバリ、マヒワ
- 希望者は、林業指導員か
鳥獣保護員(小藪中居喜
代光)へ。

口はそゝ熱を
 一層熱をおびる始末
 でうんざりの気持ちからつい
 ついり込めたしまつた
 純粹で素朴な風物を聞く
 うちに、それが私の望郷を
 呼びさまし、ついには熱弁
 の郷里が、妻の郷里よりも私
 を解き出す羽目に素晴しいか
 「後になって思い出してみ
 れば、どこそこの郷里の方
 が素晴しいなど不可能な
 価値判断をした私自身が少
 々恥かしく思えたが、その

となつて
 生き続け
 る風が、
 自然に少
 年頃から
 の肌にし
 むらこみ
 込んでい
 るから
 仕事との
 関係で全
 国を旅す
 私には、
 いづつか
 らつぎえ
 と思ふ姿
 然が、い
 のを見て
 までであ
 る私の故
 郷だけは
 思ふ

う。あ
 かのすば
 いに繁つ
 た清水が
 流れ、西
 の空

ていふかには私もそ
こんで行つたし、ま
をなすめたい。いま
真妻と一緒になる。
ふるさと私の自慢話
したとき、私の供達
は東京で「うかつに
私とは違う」といふ
企てでもいろいろあ
東京70渋谷区広尾
一三五六

森岡道徳さん
の手記

「森岡道徳さん
の手記」

「故郷は遠きにありて思
うもの」この詩のように、
速く故郷をはなれ異国の地
で生活していると、しみじ
みと生まれ故郷を思い出し
毎月送られる広報紙を心ゆ
くまで読み、時代の流れと
共に、進みゆく肱川に心か
た

ないことも知れませぬ
私は仕事の関係上、転々
と異国（宮崎、沖縄、佐渡）
を歩いていきます。そこに
は、それなりのよい所があ
り、人情豊かな肱川とそん
なに変更ません。しかし、
そこで永住するかと問われ
たら、「ノー」と答えませ
す。人が何といおうと生ま
れ故郷肱川が一番よいから

……とは人情豊かで永住の地

人情と苦闘の二つの顔

中居谷 永田 幸

私が肱川に住むのは、二度目になります。最初は、父が土木の技術者として在職した。二度目は、嫁の幼少で、中居谷での生活です。幼時の思い出や友人の名残りが知らず知らず渡り鳥のようには、中居川に舞い戻った大きな原因と思

生きる

は、山肌を這ひ始め、百年をこえて、百年でもずっと、い声がかきこえる。果物も、山草

幸福感

平子
一日にとけて
る頃庭先で
る柿の木
のかんだか
す。
木も生活に平
苦悩の顔なです。

行しています。近隣の人は
一家の人のように打とけ合
っています。私からみるふ
るさと——それは、情趣で
は、かけがえのない、詩情
とまた人情をたたえた、一
つの顔、また生活では、苦
悶を求める一つの顔慈愛と

森
兵頭定雄

宮田満寿さん

「手記」の
 肱川を離れて十一年の月
 日が経ちました。
 広島にも美景はたくさん
 ……
 とは私の心の「わらい」
 ありますが、故郷を離れる
 までは何も感じなかった美
 しい山川草木に深い愛着を
 けて行くことでしょう。
 （広島県安芸郡海田町
 第十三補給隊）

の草刈、背負い仕事など苦しい汗のおいを感じ、山のふもとです。子供のような火を消さないように必死に拵ってこえた山、坂など生活に不便で過疎につながった悲しさを持つていた故郷です。

私とも戦争に参として北滿の苦寒さと飢えを凌ぐくったことが、時折、近隣、る便りこそ私のなり、幾度も詩郷の懐しさを嘗ある。

加した一人
野で五年間
いて生活を
ある。
家族から来
心の支えと
むたびに故
えたもので

またの歩く道のは、私に
とって重労働であったが、私に
見慣れた沿線の景色や家々
を見ると、生きることの
喜びと、私にはふるさとが
あったんだという幸福感で
いっぱいだった。
さまざまな人生を送る中
に故郷を思わぬ者はだれ一

わたしのみたひしかね //

子どもたちの手記

観光の町と知られている
 私にはあこがれて
 います。

また、昔からの大谷文楽
 も有名です。このような
 とで、狐川町が、発てん
 たのかもしれない。でも
 鹿野川ダムで、狐川町が、め

目んが自然なうんが自然からで
 ず、まされてると思ひます。これ
 ても、工業も道路も開
 発されないといふと、日本は、発
 達せんしないかもしれませ
 ん。しかし私は、そんな所
 よりも、いなかでもよい所
 へ、それに住みたいと思ひま
 す。

川町は、觀光の
 ほうしと思つて
 います。道路を開
 発するが自然な
 ところを、空
 間をつまみ、
 いろいろな
 などがござ
 りたいと思
 います。

からでも、町となつてしまふ。大切にして、町民に空を緑と答へていました。みんなだと思ひました。

時、バスの中で、バスガイドさんが「肱川と京都とどいずねがいられてすか。」とたずねられました。その時、みんなはそろつて「肱川」と答へていました。わたしはみんなの肱川が好きなんだと思ひました。

都会へのあこがれは
あるけれど

富田とゆり

きれいな水、すみきつ

中野小

山

じように、とてもすばらしい風景とされているでしょう。秋には、空が青々とし、山が赤や黄色に変化し、とても秋らしいすがすがしい気持ちになります。また、最近できた観光果園も人気があるそうです。そのほか、鹿野川そう

を、水害から救ったダムを、鹿野川園地にあるてんぼう台から見ると、とても美しいです。ダムがあり、鹿野川湖、発電所、町民プール、鹿野川そうなどが見えます。

肱川町にあこがれている私が、工業のさかなな東予地方に行くと、感じました。空は、はいい色で、空気は工場からだすけむりや、車のはい気ガスなどでよくされています。車の中から外へ出ると、すぐに目がいい

は、どこの住人でもない。農家の農村です。工場らしい工場の場もなく町の人達も農業か商業に従事しています。都会のように公害もなく、空気がとてもきれいで景色がすばらしいと思います。

わたしは脇川で生まれ育ちましたから美しさに慣れましたから。しかし、都会から帰った人達には、やすらぎとるおいをあたえるのではないでしょ

か。わたしは、どこをみます。

活は、多分ともきいと思ひます。わたしは、よくいいます。わたしたちは、どこでも生きていくことができます。都会へ行く時、都会があります。でも、楽しいこともありません。つらいことに出たり、苦しんだりすることもあります。わたしは、青空を思い浮かべます。

うゑうゑ　ゆゑうゑ　くつだ
 としは、いふ川
 あこがれな
 早く卒業し
 都へ出よう
 しかれませ
 いやなりと
 ばかんな時
 会つたとき
 思ふに
 澄みきつ
 べると思

残父とい
 小方で中
 か一校の
 落ちはて
 いすち着
 帰ないま
 まてす。く
 いふと思
 るよさを
 見ないも
 の直も静
 かして、少
 と思ひ
 かの思
 けい
 然をわす
 れなから
 みんや川
 のるなガ
 のだと願

は、この
 さない
 空、美
 うに、
 保ち山
 自
 明なれ
 らいた

「肱川をよごすまいや」の合言葉（「大切に」運動入選標語）

運動入選標語)

